

各関係機関長 殿
病虫害防除員 殿

徳島県立農林水産総合技術支援センター
病虫害防除所長
(公印省略)

平成22年度農作物病虫害発生予察情報について

平成22年度農作物病虫害発生予察特殊報第3号を發表したので送付します。

平成22年度農作物病虫害発生予察特殊報第3号

平成23年 3月28日
徳 島 県

1 病虫害名及び病原名

ホモノハダニ *Petrobia latens* (Müller)

2 発生作物

ニンジン

3 発生地域

吉野川市及び板野町

4 発生の経過

平成23年3月に徳島県板野郡板野町で栽培されているトンネル栽培ニンジンにおいて、赤茶色のダニが多発生し、吸汁害より葉に黄化症状を表す株が出現した。虫体を茨城大学 後藤哲雄教授に同定依頼した結果、ホモノハダニと判明した。その後の調査において、吉野川市のトンネルニンジンにおいても発生が確認されている。

ホモノハダニは世界各地に分布しており、国内でも麦類、イネ科牧草、豆類、イチゴ、ネギでの発生が報告されている。



5 被害の特徴 等

1)被害症状

ニンジン葉を吸汁し、葉に黄化症状を呈する。トンネルニンジンではトンネル中央あたりで発生が多く、トンネル外や周辺部での発生や被害は少ない。

水田にしない畑地で被害が多く、水田後作地では発生が少ない。

2)形態

一見カンザワハダニ、赤色型ナミハダニに似ているが、第1脚が突出して長いのが特徴である。

雌成虫は体長約0.7mmで、濃褐色ないし緑褐色。背面から見ると楕円形で、側面から見ると背が盛り上がっている。胴背毛は短く、大部分は隣の胴背毛の起点には達しない。胴は細長く、第1脚は胴部と同長かやや長い。

3)生態

雄成虫は存在しない。幼～成虫がダイズ、イチゴ、ネギ等の作物に寄生するが、重大な被害をもたらすことは少ない。北海道では年間5世代発生するが、第2世代以降は休眠卵を産むことが多くなるので、第3世代以降の個体数は極端に少ない。四国での発生消長は不明である。冷涼時でも動きが活発で、すばやく動き回って地表面と植物体を行き来していることが多い。

4)寄主植物

国内では麦類、イネ科牧草、豆類、イチゴ、ネギでの発生が報告されている。

6 防除上の注意等

- 高温時期には土中で休眠卵として越冬している可能性が高いので、発生が多かった圃場では夏場に水田化し、卵を死滅させる。
- 室内での薬剤感受性試験では、メソミル水和剤の効果が高かった(但し、現行の登録での対象病害虫はアブラムシ類、ヨトウムシ、ハスモンヨトウ)。

